**アンケート・ピックアップ**

**4月14日　特定非営利活動法人　Teach For Japan 代表理事　松田　悠介　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

松田先生は人生で体験してきたすべてのことを活かして生きているのだと強く思いました。中学生時代のいじめの話も、マイナス的要素になりかねないのに、そこで感じた気持ちや先生に対する気持ちを今に至るまで持ち続けて、志に変えているところが本当に素晴らしいと思います。また、そのイジメを救った先生は、「１％でもいじめられる側に非があるならそれをなくそう」と言ったというのを聞きましたが、私はそれを聞いて少し冷たい感じがしました。いじめられていることを知っているなら、いじめている側に注意をすればいいのに、と。でも話を聞いているうちにその先生は、いじめている側を注意して強制的にやめさせても、それは一時的なことに過ぎないし、いじめられている側にとっても、結局心の傷は癒えないだろうし、自分に対する自信は回復しないことを知っていたからこそ、あえていじめを自らなくす努力をさせて自分で“のりこえた”という感覚をもってもらいたかったのではないかと思うようになりました。（教育人間・人間文化・１年）

「人を活かすには、その人と向き合いその人を理解すること」　個人の特徴をよく理解し個性を最大限に活かす。自分は中学校・高校でバスケ部のキャプテンを務めていたとき、４０人以上いた部員と“必ず一日に一回は全員と会話する”という形でコミュニケーションをとることで部員のことをよく知ろうと努力していたのでとても共感できた。

「目的意識を持ち、努力をすること」　自分は塾でアルバイトをしているが、やはり“あの大学に受かりたい”とか“将来こういうことをしたい”などの目標を持っている人とそうではない人とでは、学習に取り組む態度に差がある。学びに対して能動的になるには自分の目標を持ち努力するのが大事なのはわかるが、まだ目標を持ってない、自分の目標を理解できていない人に対してどのようにしたらやる気を引き出すことができるのかが聞きたかった。（理工学部・建築都市環境系学科１年）

　大学は学力を上げる場所であり、学力があるだけの人材はもう求められていないという言葉に感銘を受けました。大学で学力を上げながら自分自身をより良い場所に持っていくために、突出した何かを探さなければならないのだと思いました。

　熱い志を持った人たちが未来を見据えて、今自分が良ければいいという考え方ではなくより多くの人々や社会のためにリーダーシップを発揮するTeach　For　Japanはとても優れた試みであると思いました。（理工学部建築学科三年）

自分の両親は教師であり、教育という場はとても身近なので、とても興味深い講演でした。小中高の学びの責任は教師にあるが大学での学びの責任は学生にあるという言葉に、これからの４年間の勉強への気持ちが高まりました。教育は最大の成長戦略であり、社会を良くするためには教育を改善することが不可欠だと思います。その中で松田さんの言葉は大変心に響きました。しかし、平均的な人材ではなく突出した人材を必要とする点で僕もそう思うのですが、その場合多数の平均的な人が出てくるわけであり、そういう人々はどうすればいいのでしょうか。僕は平均的な人も社会に貢献するシステムが必要だと思いますが、抽象的にしか考えられません。　　　　　　　　　　　　（経済学部　国際経済学科　１年）

教育においては子供に非はないという言葉に興味を持ちました。私は高校まで先生に恵まれたと自分で思っています。恩師と呼べる先生が何人かいて、私の人生を変えたと感謝しています。しかし私の親とは成長していくにつれ関係が悪化し、金銭以外ほぼ絶縁状態です。私は今後親になったときにこの言葉を思い出し、全力でぶつかっていきたいと思いました。

また、松田さんが気づいたとおっしゃった「熱意は持続させなければならない」ということに刺激を受けました。夢を持って仕事を辞め、この大学に入学した私が入学後熱意を忙しさを理由に忘れていたことに気づかされ、再び勉強をするきっかけを頂けました。本当に有り難うございます。私も突出した個性が集まって新しいものが生まれると思っているので、自分がその一員になれるよう興味を持っている分野を極めようと思います。（経営・経営・1年）

松田先生に人生の転機を与えた先生の「９９％は相手が悪いが、１％でもお前にできることがあるかもしれない。」という言葉は、松田先生をこんなにも素晴らしい人材に育て上げた過程がすごく印象に残った。この過程で体育の授業での、個々の強みを生かし、弱みを補えるようなマネジメントがとても重要だと思えた。今の社会が、一つの強みを見せつけていかねばならない時代になっているので、松田先生の恩師はすごいと思った。目標、目的意識を持つこと、自分で自分の学費を負担し、無駄を省き、授業を意味のあるものにしようとすることが、大学で単位をたくさんとること、TEACH FOR AMERICAに携わり、Teach For Japanという会社を立ち上げるに至ったと思った。社会に出て使える人間は、思ったことを積極的に口に出し、目標を達成したら、再度、目標を設定し、違った価値観を持つ人々で価値観をぶつけ合い、そういった過程で「自分のために働く」という価値観から「持続するサービスを提供することが重要である」という価値観に転換することも必要だと思った。リーダーシップは教職だけでなくすべての職に通用するものだと思った。（経営・経営システム・1年）

中学生のころの先生の写真を見て、高校生の頃と現在の先生と全く顔が違いました。やせた、背がのびたという問題ではなく先生がしてきた努力、積み上げてきたもの、情熱がにじみ出ています。徹底的に勉強した、と言い切る姿が本当にかっこ良いです。私は親に払ってもらっている学費を取り返すくらい努力した、と４年後に言い切れるか？改めて考えさせられました。たった一人が先生の人生を変え、そして先生が数えられない程の人の人生を変えていることを知り、他者からの影響の大きさを実感しました。前回の授業では、実践することが大切で、やってみる失敗などないと学びましたが、先生の行動力、そしてしっかりと吸収しているところを見て、よりそれを実感しました。（教育人間・人間文化・１年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

松田さんは大学生の頃、学費を自分で払っていたため授業に真面目に取り組んだという話を聞いて、自分は親に学費を払ってもらって大学に通わせてもらってこの授業の抽選にも運良く通って受けることができるというチャンスを頂いたので、様々な分野で活躍されている方々の講演から知識を吸収し、他の授業にも積極的に取り組んでいこうと思いました。時間を無駄にせず、色々なことに精一杯取り組んでいきたいです。（経営・経営・１年）

　リーダーシップを育てるためにはこういった講義に参加するだけでなく、自ら教室や小さなグループを運営してみることが大事だと気づきました。個人の生活や学習をマネジメントするのは当たり前で、その上でどんなに小規模でもコミュニティを運営する立場を担っていきたいと思いました。　　　　　　（経営学部　経営学科　１年）

これからの大学4年間で、一つ一つの講義に対して、吸収できるものを見つけて、毎回毎回自分をレベルアップさせていきたいです。そして、自分には何があるのか、何に対して興味を持ち、志を見つけるか、ということを今からでも見つけていきたいと思いました。（経営・国際経営・1年）

**授業スタッフの感想１**

松田さんの話を聴き、大学受験当時の学びに対する想いを思い出しました。楽単をとろうとしていましたが、周りに流されず自分が学びたいことを本気で学んでいきたいと思い直しました。また、講演後も日本人は人の話を批判的に聞いていないと教えていただき、これからはしっかりと自分の意見が持てるように受動的ではなく、批判的にも物事を考えていきたいと思います。この話がきけたのは授業スタッフをやっていたからであったので、これからも授業だけでは聞けない話もどんどんゲストの方から吸収していきたいと思います。

**授業スタッフの感想２**

今回はじめてのスタッフの活動を行い私は今までなんとなく書いて提出していたプリントですが実際に一枚一枚よむとたった２３枚でもすごく時間がかかるということがわかりました。これからはもっと字を丁寧にかつ自分の考えたことを簡潔にまとめにするようにしたいです。また、ほかの学生の方がどのようなことを考えたのかを理解するいい機会だなと思いました。自分の読んだ中で多く見たのは、松田様の何事にも批判的にみるという姿勢です。スタッフだけで話を聞いたときにもありましたが常に批判的に話を聞くことで疑問が生まれその疑問について考え質問することが新たな学びへとつながるというふうにただなるほどとうなずいて聞いているよりもよりよい学びができるので批判的に話を聞く姿勢も大切したいです。あと、松田様のプレゼンテーションについてですがプロジェクターに長々と文字を書くのではなく一枚の写真やワンフレーズのみを映し出し話すことで聞き手の興味をそそり印象深かかったという意見も多々ありました。今後の参考にしていきたいなと思いました。